

## 花巻市社協 東日本大震災復興支援報告書の発行に寄せて



余寒の候、皆様におかれましては、ますますの御清祥のこととお慶び申し上げます。

これまで花巻市民の皆様並びに花巻市社会福祉協議会の役職員の皆様には度重なる御支援と励ましのお言葉、そして御尽力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

当協議会では、発災後「災害ボランティアセンター」を、また、その後、名称を「生活ご安心センター」と変更、設置運営し被災者支援に全力で取り組んでまいりました。

この間、花巻市社協様より生活福祉資金貸付職員やボランティア活動常駐支援員を派遣していただき、また、ボランティアバスの運行や「地域語りの日」への協力など、本当に多くのお力添えを頂きました。

これらの御支援は、当会職員はもとより、釜石市民にとりまして誠にも誠に力強く、そして温もりを感じられるものであり、当協議会の活動に大きな励みとなりました。

まだまだ復旧・復興には、時間がかかると思いますが、今後とも被災者支援活動に不断の努力をもって取り組んでまいります所存でございます。

このたびの心温まる御厚情に対しまして、この場をお借りしまして、お礼を申し上げますとともに、皆様方のますますの御発展と御健勝を心よりお祈り申し上げます。

平成25年3月吉日

社会福祉法人 釜石市社会福祉協議会 会長 丸木久忠

## ◎東日本大震災復興支援活動指定寄付

本会の行う沿岸被災地支援活動に対したくさんの御寄付をいただきました。

ここに御寄付いただきました皆様を御紹介し、改めて皆様の善意と御協力に感謝申し上げます。

また、この他多数の義援金をお寄せいただきましたが、本会でお預かりいたしました義援金は、岩手県災害義援金募集委員会へお届けさせていただいており、岩手県内の被災者の方々に贈られています。

なお、ここで御紹介するのは、花巻社協が行う活動に対し災害復興指定寄付金としてお預かりした皆様を御紹介しています。

《東日本大震災指定寄付御芳名》 合計 17件 1,301,518円

千田拓郎 様	10,000円	明るい社会づくり運動みなみ岩手推進協議会	100,000円
堀合徳身 様	50,000円	花巻陶芸作家協会	
藤井与次郎 様	10,000円	会長 佐藤富男 様 (2回)	167,379円
匿名	30,000円	アントレーヴ(株)	
県立花巻南高等学校 様	48,189円	スマイルまつり実行委員会 大菅かおる 様	71,976円
県立花巻北高等学校 様	149,650円	祈りと復興チャリティコンサート	
南岩手 GL クラブ 様	100,506円	代表 せがわ京染店 瀬川卓哉 様	102,424円
(株)小原建設		クリスマスチャリティコンサート実行委員会	
代表取締役 小原久一 様	55,340円	桐田法子、佐藤司美子 様	40,088円
みよの会		宮野目ゴルフ実行委員会 実行委員長 村田昌弘 様、	
代表 山崎祝子、川端節子 様	190,000円	宮野目コミュニティ会議 第四部会 部会長 葛巻幸男 様	27,591円
花巻市社会福祉協議会職員一同	148,375円		

## ◎花巻社協職員による物資支援

花巻市社会福祉協議会では、自らも被災したにも関わらず、被災された市民のために休まず活動し続けている被災地社協職員の活動を支援したいとの思いから、職員に寄付(カンパ)を募り、13事業所から約37万円の寄付が集まりました。

この寄付金により、職員派遣やボランティアバス等で協力・支援していた釜石市社協の活動に必要な資材を購入しお届けいたしました。



帽子やポロシャツ、作業服などをお届けいたしました。



# はなまき 社協情報

2013.4.1

## 震災支援活動報告特集号

編集発行：社会福祉法人 花巻市社会福祉協議会 本部

〒025-0095 花巻市石神町364番地 電話 0198-24-7222 Fax 0198-22-4288

http://hanamaki-syakyo.or.jp/ Eメール hanamaki-syakyo.vo@proof.ocn.ne.jp

花巻市社会福祉協議会では、東日本大震災の発生に伴い、3月12日災害ボランティアセンターを立ち上げ、物資の受付やボランティアバスの運行等被災地支援活動を行ってまいりました。

ここに、本会の活動に御協力いただきました皆様へ感謝申し上げますとともに、被災地支援活動の報告をいたします。



ボラバス  
協力者  
集合写真

## 高橋勲会長あいさつ



忘れもしない、あの平成23年3月11日に発生した東日本大震災から丸2年が経過し、死者15,882人、行方不明2,668人(H25.3.11現在)という未曾有の大災害となりました。

私ども、花巻市社会福祉協議会では震災直後から災害ボランティアセンターを立ち上げ、支援物資受入れ、職員派遣、ボランティアバスの運行、ボランティア活動支援員の被災地常駐、「地域語りの日事業」へのボランティア・職員派遣等、市内、県内外多くのボランティアの皆様のお気持ちを被災地に届けてまいりました。

特に、JR釜石線でつながりの深い釜石市を主な支援先として継続的に支援させていただきました。少しずつ希望への光が見え始めているのも事実ですが、真の復興には、ほど遠い状況であります。

しかしながら、本会の支援が微力ではありますが、その復興への足掛かりとなり、希望への一助になったもの思っております。

ここに、これまで多くの皆様へ御協力いただきましたことを感謝申し上げ、震災から2年が経過したことを一つの契機に、活動を振り返り、今後の新たな支援活動へ繋げていければと思っております。



# ◎支援物資受入・搬送報告

本会災害ボランティアセンターでは、震災発生に伴う沿岸部の被害の甚大さから、多くの支援物資が必要であると判断し、3月14日にえふえむ花巻様に支援物資の提供について放送を依頼し、市内に呼びかけを行ったところ、花巻市民の皆様をはじめ、多くの方々から被災地へ向けた支援物資が寄せられました。

また、集まった支援物資の仕分け作業やトラックへの積み込みを御協力いただいたボランティアの方々を始め、燃料不足にもかかわらず、有志の輸送ボランティアの御協力により、被災地へ向け物資をお届けいたしました。

救援物資の受付期間…3月13日～3月20日

※花巻市が、3月19日から救援物資の受付開始したため、社協での受付を終了。

月 日	数 量 等	搬送地域	搬送物品
3月14日	ワゴン車2台	釜石市（鶴住居・栗林地区）	衣類、寝具類、タオル、オムツ、衛生用品他
3月15日	ワゴン車2台	釜石市（鶴住居・栗林地区）	軽油540ℓ、衣類、寝具類、米、衛生用品他
3月17日	ワゴン車1台	大船渡市	衣類、寝具類、衛生用品、米、味噌他
3月18日	4t車、3t車	大船渡市、陸前高田市	灯油、米、味噌、パン、衣類、寝具類、衛生用品、日用品他
3月18日	ワゴン車1台	大船渡市（守、越喜来地区）	医薬品、衛生用品、日用品、寝具類他
3月19日	2t車	大船渡市	衣類、寝具類、衛生用品、栄養ドリンク類他
3月20日	4t車一部	気仙沼市	衣類、日用品他



寄せられた支援物資



医薬品や、衛生用品も寄せられた



積み込み協力のボランティアの方々

# ◎被災地社協への職員派遣支援

東日本大震災による沿岸部の市町村社協の被害は、社協施設の倒壊・破損、幹部職員の行方不明など非常に甚大でした。また、被災地の住民の避難所生活も長期化する見込みの中で、緊急の支援が必要な状況となっていたことから、被災地の市町村社協及び住民の支援を行うため、岩手県社会福祉協議会の呼びかけにより、生活福祉資金緊急小口貸付及び、ボランティアコーディネートについて、岩手県内の市町村社協職員により支援協力することとなり、本会でも職員を派遣し支援をいたしました。

## ●花巻社協からの職員派遣

派遣期間	平成23年3月21日～平成23年10月22日 (95日間)
派遣先	釜石市社協、大船渡市社協、陸前高田市社協
派遣人数	延べ37人

※沿岸被災地社協の運営が軌道に乗ってきたことから、10月22日をもって内陸社協から沿岸被災地社協への職員派遣は終了。



ボランティア受付の様子



緊急小口貸付申込受付の様子

# ◎釜石市復興支援活動『地域語りの日』

仮設住宅には、震災前に同じ地域で暮らしていた方々がまとまって入居しているわけではなく、様々な地域で暮らしていた方々が集まって生活されています。

震災前に同じ地域で暮らしていた方々が一堂に会し、昼食を取りながら楽しい時間を過ごしていただき元気になるほしいという思いから『地域語りの日』と題して釜石市社会福祉協議会主催で交流会が開催されてきました。

本会ボランティアセンターでは、震災発生当初から釜石市社会福祉協議会と連携し、釜石市の復興・復興支援に当たってきたことから、平成24年度も継続して支援するため、ボランティアの協力を得て『地域語りの日』を支援してまいりました。

ここに、これまでの活動に御協力いただいた方々にお礼申し上げますとともに、全21回分の活動内容を御報告いたします。

月	活 動 日	ボ ラン テ ィ ア	職 員	活 動 内 容
4月	24日(火)	0人	2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の送迎</li> <li>交流会の補助</li> <li>参加者のお世話</li> <li>音響機材の片付け</li> <li>血圧測定 (保健師による)</li> </ul>
5月	8日(火) 26日(土)	4人	2人	
6月	9日(土) 28日(木)	3人	3人	
7月	3日(火) 14日(土) 28日(土)	5人	3人	
9月	4日(火) 22日(土)	2人	2人	
10月	2日(火) 16日(火) 27日(土)	2人	4人	
11月	10日(土) 20日(火)	0人	4人	
12月	8日(土) 18日(火)	1人	3人	
1月	8日(火) 26日(土)	1人	2人	
2月	12日(火) 23日(土)	1人	3人	

活動の流れ	
7:00	花巻市福祉センター集合、出発
9:00	釜石市生活ご安心センター到着、送迎開始
10:10	老人福祉センター到着、交流会開始
12:10	昼食、入浴
15:00	交流会終了、送迎開始
16:00	生活ご安心センター出発
18:00	花巻市総合福祉センター到着、解散



← 民謡日本一の歌手、漆原栄美子さんらにより歌や踊りが披露され楽しんでいました

→ 午前の部の最後はみんなで炭坑節を踊り大盛り上がりでした



→ 昼食を取りながら震災前の同じ地域に暮らしていた方同士で会話が花が咲いていました



← 昼食後は、カラオケや温泉に入ってゆっくり過ごされ、マッサージボランティアの足揉みが気持ちよさそうでした



← 参加したみんなととも笑顔で記念撮影



# ◎写真洗浄ボランティア活動

本会災害ボランティアセンターで行っていたボランティアバスの際に、釜石市災害ボランティアセンターから津波により汚れたり傷んでしまった写真をお預かりし、富士フィルムテクノプロダクツ株式会社様の御協力、御指導のもと写真洗浄ボランティア活動を実施いたしました。



写真の洗浄方法の指導の様子



ボランティアによる洗浄作業の様子



洗浄した写真の乾燥の様子



乾燥した写真をアルバムに収め完成

## 写真洗浄ボランティア活動者内訳

日付	参加人数			参加地域	
	総数	男	女	花巻市内	県内 (花巻市外)
8月27日	20	7	13	15	5
8月28日	8	3	5	7	1
合計(延べ)	28	10	18	22	6

市外からの参加者・・・盛岡市、北上市、紫波町

# ◎沿岸被災地ボランティア活動支援員派遣

花巻市受託事業として、平成23年11月から平成24年3月末までの5ヵ月間、仮設住宅等入居者のコミュニティ活動の支援活動、現地ボランティアセンターの支援活動等を行うことを目的として、3人の職員を釜石市に常駐させ復興支援を行いました。

主な支援内容は以下のとおりです。

活動内容	件数
釜石市社協生活ご安心センター（災害復興ボランティアセンター）業務	260件
ボランティア派遣業務（引率、コーディネート等）	92件
仮設住宅等コミュニティづくり業務（仮設でのイベント、訪問活動）	158件
その他	265件
合計	775件

※3人の活動の5ヵ月間の累計、重複掲載



平成24年の新年、仮設住宅でのもちつき交流を実施



仮設住宅で定期的に物資を配布



地域語りの日の送迎や運営にも協力

# ◎ボランティアバス活動報告

本会災害ボランティアセンターでは、甚大な被害を被った釜石市を支援先として、4月23日から毎週1回ボランティアバスを運行し、沿岸被災市町村救援ボランティア活動を実施してまいりました。

周知方法としては、本会ホームページとテレビの情報番組を通じて行いましたが、周知後すぐに定員を満たす状況となっております。

また、参加いただいたボランティアの方々は、市内の方に限らず、市外はもちろん、北は北海道、南は大分県からと日本全国から支援に御協力いただくことができました。

ここに、活動に御参加いただいた多くの方々から心からお礼申し上げますとともに、全23回分の活動内容を御報告いたします。

回	月日	活動内容	ボランティア	職員	総参加者
1	4月23日	個人宅泥出し、家具搬出（鶴住居）／個人宅清掃（只越町）／避難所でボランティアセンターのチラシ配り、ニーズ調査／持ち主立ち会いのもと、被災車両内の物品確認作業／ボランティアセンター運営補助（受付等）	39	2	41
2	4月30日	商店街路肩清掃、側溝の泥上げ（大渡町）	20	3	23
3	5月8日	山の斜面の瓦礫撤去（箱崎町）	19	3	22
4	5月15日	商店街ビル泥出し（大渡町）／個人宅家財運び出し（浜町）	20	3	23
5	5月22日	飲食店機材運び出し／駐車場泥かき／個人宅（工業所）瓦礫撤去	18	3	21
6	5月29日	避難所での清掃、生活スペースの区分け、物資の在庫管理、排水溝の掃除（桜木町）／側溝の泥上げ（大渡町）	20	3	23
7	6月4日	個人宅泥出し（嬉石町）／店舗の瓦礫撤去（平田）／家財洗浄、瓦礫撤去（鶴住居）	19	3	22
8	6月11日	商店街ビル泥出し、泥の拭き取り、ビル周辺の瓦礫撤去、側溝の泥かき（大町）／仮設住宅での荷物運び出し（天神町）	20	3	23
9	6月18日	田畑の瓦礫撤去（唐丹町）	20	3	23
10	6月25日	田畑の瓦礫撤去（唐丹町）	20	3	23
11	7月2日	側溝の泥上げ（鶴住居）	20	4	24
12	7月9日	3階建てアパートの泥出し、瓦礫撤去（鶴住居）	20	2	22
13	7月13日	ビル3階店舗の清掃（大町）／仮設住宅への荷物搬入（鶴住居）／瓦礫撤去（鶴住居・浜町）	12	3	15
14	7月20日	3階建てビルの瓦礫撤去（浜町）	15	4	19
15	7月27日	仮設住宅への資材搬入（甲子町）／瓦礫撤去（唐丹町）	14	4	18
16	7月30日	草刈り（箱崎町）	16	1	17
17	8月10日	避難所での物資の仕分け、資材撤去、清掃（桜木町）	16	3	19
18	8月21日	店舗兼住宅の泥出し、高圧洗浄（大渡町）／店舗の瓦礫撤去、集積所への運搬（大渡町）	19	4	23
19	8月23日	草刈り、立木伐採（平田）	17	2	19
20	8月28日	青空市（甲子町）	20	2	22
21	9月7日	青空市（甲子町）	16	2	18
22	9月14日	個人宅の瓦礫撤去、集積所への運搬、高圧洗浄（鶴住居）	16	2	18
23	11月24日	仮設住宅雑木林の伐採（甲子町）	7	1	8
合計			423	63	486

活動記録写真は次ページに掲載しております



# ボランティアバス活動写真



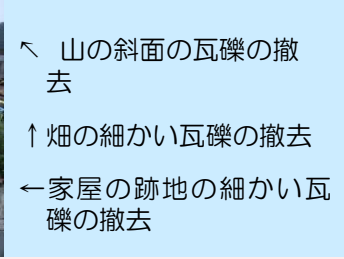
← 朝6時集合の受付  
↑ 出発前にオリエンテーションを行う  
← 活動前に“花巻社協”のヒブスを着用



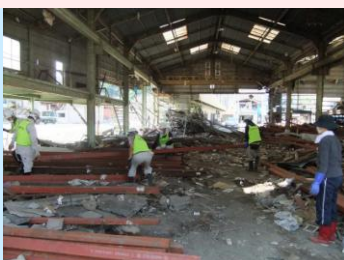
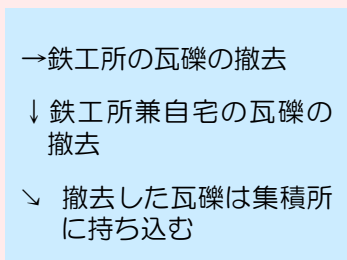
← 瓦礫や泥が詰まり水が流れない側溝  
↑ 側溝の泥上げ作業  
← 水が流れるようになった泥上げ後の側溝



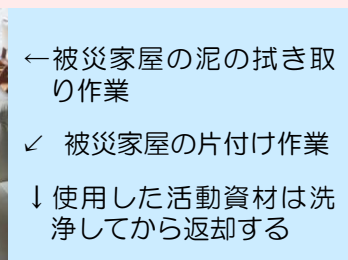
→ 家屋の床下に入り込んだ泥上げ  
↓ 家屋内の瓦礫撤去  
✓ 瓦礫撤去が進んだ状態。細かな瓦礫も箒で撤去する



← 山の斜面の瓦礫の撤去  
↑ 畑の細かい瓦礫の撤去  
← 家屋の跡地の細かい瓦礫の撤去



→ 鉄工所の瓦礫の撤去  
↓ 鉄工所兼自宅の瓦礫の撤去  
✓ 撤去した瓦礫は集積所に持ち込む



← 被災家屋の泥の拭き取り作業  
✓ 被災家屋の片付け作業  
↓ 使用した活動資材は洗浄してから返却する



↑ 草刈りや木の伐採の依頼もあり対応した

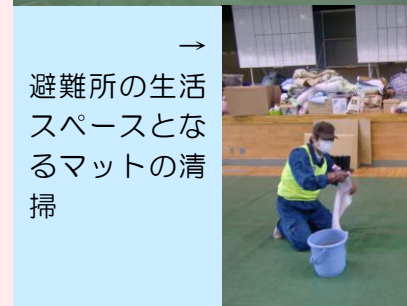


↓ 仮設住宅で生活されている方々に物資をお届けする青空市

## 避難所での活動



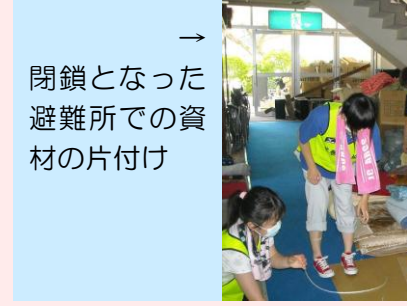
← 避難所となっている体育館で、生活スペースの区分け作業



→ 避難所の生活スペースとなるマットの清掃



← 避難所に届けられた救援物資の数量や賞味期限の確認作業



→ 閉鎖となった避難所での資材の片付け



### ボランティアバス参加者内訳

回	参加人数			参加地域		
	総数	男	女	花巻市内	県内(花巻市外)	県外
1	39	25	14	27	10	2
2	20	20	0	7	3	10
3	19	15	4	11	5	3
4	20	16	4	13	5	2
5	18	13	5	10	6	2
6	20	16	4	8	8	4
7	19	12	7	14	4	1
8	20	17	3	10	6	4
9	20	16	4	12	4	4
10	20	19	1	10	5	5
11	19	13	6	13	6	0
12	20	19	1	14	5	1
13	13	11	2	7	2	4
14	15	14	1	7	2	6
15	14	12	2	6	2	6
16	16	16	0	16	0	0
17	16	11	5	8	3	5
18	19	15	4	10	2	7
19	17	14	3	17	0	0
20	20	15	5	11	6	3
21	16	10	6	6	4	6
22	16	12	4	11	1	4
23	7	7	0	7	0	0
合計(延べ)	423	338	85	255	89	79

※市外(県内)からの参加

盛岡、滝沢、奥州、北上、一関

※県外からの参加

青森、宮城、秋田、福島、茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、石川、福井、愛知、京都、大阪、広島、香川、大分



## 「社協のボラバスに参加して」

本館在住 大桐 啓三

一昨年の震災発生時、なにか現地でお手伝いできることがあるはずと窓口を探していたところ、ボランティア登録していた花巻市社会福祉協議会から連絡があり、4月30日の第2次現地活動に参加することができました。

職員の方3名とボランティア20名。釜石市大渡町商店街で側溝の泥上げ作業を行いました。ヘルメット、鉄板入りの長靴、防塵マスクの重装備でした。休憩

時間に周りの様子を見ると、崖の下のコンクリートブロックの前に家の柱、屋根、潰れてひっくり返った乗用車が、津波に寄せられたままの姿であり、その破壊力の大きさに驚きました。

県外からの参加者も多く、月2回の20名定員枠の競争率は高いものでしたが、その後も9月14日の最終便まで8回参加する事が出来ました。

ここでの体験が私の今の支援グループ「ゆいっこ花巻」での活動に繋がっていると云えるでしょう。

**御参加いただきましたボランティアの皆様  
ありがとうございました!**